

## 実行委員長ごあいさつ

震災後4年目に始まったこの「iウォーク」も、今回で17回目を迎える。皆で歩いて寄付するというこのアイデアは、神戸復興拠点のサンフランシスコ・エイズウォーク視察のお土産である。全米約100都市で開催されるこの催しでも、サンフランシスコは最大級で、28年目の今年は2万5千人が参加し、寄付総額は3億円に達したという。

残念ながら神戸は交通規制のため第4回から有志参加型に切り替えたが、3年前から東北の仲間も加わっている。

iウォークの経路は、神戸の伝統的な下町を巡っている。震災のため、古い市街地の面影は希薄になったが、住民の絆は消えていない。まちの復興はひとの復興だという貴重な教訓を、是非、この機会に確かめていただきたい。

こうべiウォーク2015 実行委員会  
実行委員長 小森星児

## しみん基金・KOBEごあいさつ

「こうべiウォーク2015」へご参加頂き誠にありがとうございます。

20年前の阪神・淡路大震災の教訓から、市民による自発的な助け合い活動を市民自らが支えていく仕組みとして、「しみん基金・KOBE」は誕生しました。以来15年間で延べ161団体に総額約5,700万円を助成し、地域における支え合いの連鎖を促してきました。これからも、「絆」を創り繋いでいくことが、当基金の使命と考えています。

ここでの募金は、経費を除いて当基金へ寄付され、毎年実施している助成事業を通じて、様々な分野の基盤市民活動団体へ助成させていただきます。

今後とも、何卒ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ  
理事長代行 村井雅清

- ①せせらぎ…まちづくり協会の機運を受けて整備を進めてきたもので、高野山の湧水を利用している。せせらぎの流れる歩道にはベンチを設置しており、市民が集う憩いの場となっている。
- ②シューズプラザ…震災から長田のケルシューズ産業の復興と靴のまちながの活性化を目指し、『シューズの元氣は、神戸の元氣だ!』をキャッチコピーに誕生。各種シューズ展や企画展を実施している。
- ③アジアギャザリー神戸…アジア雑貨の店が集まる商業ビル。約8千人のアジア系外国人が住む長田で、アジアとの共生をテーマにした中核施設として2000年7月にオープンした。
- ④水笠通公園…地域の防災公園(長田駅北地区震災復興土地区画整理事業)としての役割をもち、「100t級防火水塔」が整備され、苦難の道のりを次代に伝えるために「震災復興の碑」が建立された。
- ⑤新長田駅北地区画整理地区…震災前は、商業・業務施設やケルシューズ(戦後急速に増殖し、靴底、模布、靴紐穴などが、地域内の分業でなされていた。)等の工場と混在する形で狭小住宅等が立地する住商工混在地域であったが、今回の地震で約8割の建物が大きな被害を受けた。震災後は、そうした分業体制も別体化したが、今も靴紐の穴にとめる「ハトメ」の看板や、靴紐、底をつくる押型機物の工場などが残っており、自動車の下請けなど多様な仕事を請けている。東に行くと右平にアシックス(青い建物)も見かける。

①の場所は、  
トイレが利用できます。



- ①大國公園…震災による火災の延焼を防ぎ、地区の人々の遊憩所となった。倒壊した鳥居の石を使った記念像。震災直後の街の様子をステンレス板のプレートに映付けた「協働のモニュメント」。「復興の基準点」がある。
- ②南取東区画整理地区…震災前は、商店街と駅前長屋等からなる利便性の高い住宅地であったが、今回の地震ではほぼすべての建物が消失するという大きな被害を受けた。
- ③カトリックたかとり教会④…多くのボランティアの拠点となった教会。震災で消失したが、2007年4月に再建された。「ペーパードームたかとり」は台湾に移設された。NPO法人たかとりコミュニティセンターが多文化共生の拠点となり多くのNPOが活動している。
- ⑤野田北都まちづくり協議会…1999年3月の「コミュニティ宣言」後、まちづくりの情熱をハードからソフトへと移行し、地域をネットワーク化する組織「野田北ふるさとネット」を創設。(日にも見える)活動と(ひとづくり・仲間づくり・生活づくり)の思想でコミュニティでの(分かちあひ)まちづくりを目指している。
- ⑥若松公園…震災復興区画整理事業で整備された街区公園。住民の意見で道路を狭んで2つの公園が隣接する。道路を開通すると一体化して大きく使える。頻りに防災訓練が行われ、地域の防災拠点になっている。
- ⑦若松公園と鉄人28号…次項の新長田駅南再開発事業として、防災拠点とするために若松公園が大きく整備されている。公園内には、横山光輝氏の代表作の一つである「鉄人28号」が、身長18mという超ビッグサイズの鋼鉄製モニュメントとして2009年9月に設置された。
- ⑧新長田駅南再開発地区…震災により甚大な被害を受けた市南地の復興と防災公園等を中心とした防災拠点の構築、地域の活性化や副都心にふさわしい都市機能の整備を図るために実施され約8割が完成。未入居の商店が残っている。
- ⑨「鎖魂と復興のベンチ」(神戸の壁) by 岩井…若松町の公設市場の防火壁は、神戸大空襲と大震災の火災に耐え、歴史の証人として「神戸の壁」と呼ばれ震災の象徴となった。再開発事業で移転が決まり、地中の基礎部分が親子の形にデザインされ、「アスタクにつか」の地下通路に展示されている。
- ⑩大正紡商店街⑪…9割の店が全壊・壊滅的な被害を受けた。モダンな商店街として再建され、大正紡商店街らしい人情あふれるイベントが各種開催されている。大正時代の生活空間である土間と居間を再現した「大正ハイカラ進歩住夢亭」が開業されている。
- ⑫地域人材支援センター(旧二葉小学校)⑬…1929年に建設され、戦災・震災を乗り越えた地域のシンボルである旧二葉小学校が、NPO法人ふたばを指定管理者として、市民の地域活動への参加支援や地域活性化を図る人材育成の拠点として活用されている。震災関連の展示や神戸の古い写真アーカイブもある。

- ⑭新湊川…震災後、多くのボランティアグループが河川沿い公園に拠点を置き活動した。その後、2度にわたって川が氾濫したが、2000年に新湊川トンネルが改築された。
- ⑮御音東・西区画整理地区…震災前は駅前長屋が残り市場・商店街や家内工業を中心とした中小規模の工場が立地する利便性の高い住宅地だったが地震で8~9割の建物が大きな被害を受けた。
- ⑯古民家を移築した集会所…寄世町(現音美町)に建てられていた古民家を移築して作られた御音東5-6-7丁目自治会集会所。御音東地区の住民たちの交流を促す場となっている。
- ⑰御殿南公園…震災時、火災のひろがりを防止し、公園内に避難した人を火災から守ったクスノキがある。震災時は10mあったが、焼けた木の上部を切り取って8~8.5mとなっている。
- ⑱御殿北公園…地域の方で整備した公園で、この地域の120人が亡くなった場所を示す地図が刻まれている「鎮魂」のモニュメントが設置され、焼け残った電柱が保存されている。
- ⑲共同住宅「みくら5」⑳…12件が集まって建てた共同住宅。1路の地元企業の協力による「地域コミュニティスペース・プラザ」を拠点に、まち・コミュニケーションはまちづくり活動を展開している。
- ㉑KOBE 三国志ガーデン…阪神大震災後のまちおこしの一環として「三国志」をテーマとした展示施設の一つで、三国志演義をテーマとした「三国志ジオラマ館」「三国志体験館」「三国志交流館」「三国志展示館」の4施設から構成された五感で楽しめる複合型のミュージアム。
- ㉒震災ミュージアム…震災で発生した様々な助け合いの心をいつまでもとどめ、防災知識の普及啓発に努める場所として、また震災の記憶・体験・教訓を伝える拠点として整備された。
- ㉓KOBE 鉄人三国志ギャラリー…観光客に街を回遊してもらおうと2009年12月にオープン。鉄人28号の製作映像の上映や、三国志に登場する軍師・諸葛孔明の等身大オブジェを展示している。
- ㉔六間道商店街…かつては神戸有数の繁華街だったが、周辺企業が撤退し大震災もあって店舗が減少した。「六間道お百店マイル」の取り組みや、横山光輝氏(鉄人28号の作者)の偉業を顕彰する常設展示会場「六間道ごごみヤロン」、三国志をテーマにした劇名所「魏武華劇」がある。
- ㉕丸五市場⑳…80年以上の歴史を誇り、伝統の仕入や加工・販売技術を持つ、こだわり専門店が多い。アジア系食品や物産を扱う店もあり、他の市場にない楽しい買い物の場だと評されている。昔ながらの下町の人情と温もりが残る市場。
- ㉖本町紡商店街…震災で多くの店舗が倒壊したが、「ビッグハート」をシンボルとして、ふれあいコンサートや長田こどもまつり、陶芸教室・絵付け教室などのイベントを多数実施している。修学旅行生対象の絵筆紙教室も好評。
- ㉗神戸協同病院⑳…震災では救命的に夜中まで診療にあたり、震災後の復興には地域住民と一緒にまちづくりに参加してきた。地域から頼られる存在になることを理念として、地域住民とコミュニケーションをとり、病院という枠を超えて地域のまちづくりに力を入れている。